

2016いわて国体で準優勝
相撲少年男子団体 愛媛県チーム

鎌谷 健太郎 監督

(南宇和高校教諭)



上/いわて国体で準優勝した相撲少年男子団体愛媛県チーム。下/南宇和高校から参加した写真左から佐々木剣心くん(2年)、都築汰知くん(3年)、鎌谷健太郎監督。

わかやま国体 61年ぶり5位入賞で 大きな喜びも



全校生徒の前で国体の結果を報告する鎌谷監督。「たくさんの方の支えのおかげでこの結果を残すことができました」

平成28年10月に行われた国民体育大会「2016希望郷いわて国体」の相撲競技で、愛媛県勢は、少年男子団体で準優勝、成年男子団体で3位などの好成績を収め、初の総合優勝に輝きました。

南宇和高校から少年男子団体の選手に選ばれた都築汰知くん(3年)と佐々木剣心くん(2年)は、勝負強さを発揮してチームの勝利に貢献しました。少年男子団体の愛媛県チームを率いる鎌谷健太郎監督(南宇和高校教諭)は、2年連続の総合優勝に向けて、さらなる躍進を誓っています。

61年ぶりの快挙 喜びと葛藤

一昨年のわかやま国体から少年男子団体愛媛県チームを率いる鎌谷監督。わかやま国体では、県勢として61年ぶりとなる5位入賞を果たしました。大きな喜びを得る一方、教え子である南宇和高校の選手が一人も選ばれていない現実には自分自身へのふがいなさも感じたといいます。「愛媛県チームの監督を続けるべきか葛藤もありましたが、いわて国体に向けて南宇和高校からも出場できる選手を育てるという目標を立てました」。

誰もが認める実力を手にした上で、胸を張って愛媛県代表に。目標に向かって懸命に取り組んだ結果、南宇和高校の都築汰知くんと佐々木剣心くんが選考会となる3つの公式戦で結果を残して「2016希望郷いわて国体」の選手に選ばれました。しかし、国体までの道のりは順風満帆だったわけではありません。国体の前哨戦として8月末に行われた大会で、愛媛県は高知県に0-5のストレート負けを喫して、非常に厳しい状況に立たされます。



特集

愛顔つなくえひめ国体
待ったなし!!

教え子いないチーム 監督続けるべきか葛藤

かまたに・けんたろう

1987年、松山市生まれ
中学卒業後、野村高校へ入学し、3年連続
国体に出場。中央大学進学、東日本体重別
相撲選手権大会ベスト8など。卒業後、南
宇和高校講師を経て、2013年から教諭
愛媛県相撲連盟理事
えひめ国体対策本部強化委員
相撲競技少年男子団体監督



えひめ国体が開催される平成29年に主力となる世代の中から競技団体が指定する有望選手をターゲットエイジといい、愛媛県は、ターゲットエイジを中心に県外遠征や強化合宿等を通して少年種別の競技力強化に取り組んできました。南宇和高校相撲部では、佐々木剣心くん(2年)、近平昌優くん(2年)、土居佑也くん(1年)がターゲットエイジに指定されています。しかし、ターゲットエイジでも、えひめ国体出場が約束されているわけではありません。選手たちは国体出場のをかけて競技内で熾烈な競争を繰り返しています。



愛顔つなぐえひめ国体
2017年9月30日開幕
相撲競技
10月6～8日
西予市 乙亥会館

競い合うターゲットエイジ

写真左から2番目の佐々木くんは「今回の国体では先輩方の支えがあって準優勝することができた。来年は自分が軸になって優勝できるように個人の力も上げていきたい」と力を込めます



愛媛県代表には、都築くん、佐々木くんのほかに野村高校から2名、津島高校から1名が選ばれていました。「小学生の頃からライバルとして切磋琢磨してきた5人が、残りの1か月間、一丸となって遠征や最終調整合宿を行いました。ライバルが一つの目標に向かって一丸となって戦えた結果が、準優勝につながりました」。

献身的な姿勢が勝利よぶ

「一人一人の実力だけを考えてた場合、全国で2番目に高かったとは決して思いません。団体戦は5人中3人以上勝ったチームが次の対戦へと進みます。理想は5戦全勝ですが、相手も簡

単には勝たせてくれません。そんな中で選手たちは、勝ったときには『お前も絶対できる』『思い切って行って来いよ』と次の選手に対して背中を押して送り出します。また、万が一負けてしまった場合でも『次は絶対に勝つから、この試合はお前に頼んだぞ』と次を見据えて声かけを行っていました」。

3校の力が拮抗

自分の感情をぐっと押さえ、次の選手が力を発揮できるように声かけをする。献身的な姿勢がチームを一つにまとめ、勝利を引き寄せました。

今年はいよいよ「愛顔つなぐえひめ国体」が開催されます。

「2年連続の総合優勝を実現するためには、少年男子ががんばって結果を残さないとけません」11月に行われた新人戦(3人制団体)では、野村高校が優勝しましたが、鎌谷監督は、南宇和、野村、津島の3校の力は拮抗していると言います。「突出している選手はいない。負けたくないという気持ちでがんばることが結果につながります。南宇和高校の選手もまずは愛媛県の代表を目指して強い気持ちでがんばってほしいと思います」選手同士にライバル意識を持たせてチーム全体の底上げを狙う鎌谷監督。「愛顔つなぐえひめ国体」開幕まで残り9カ月。愛媛県チームの待ったなしの挑戦が続きます。



特集

愛顔つなくえひめ国体
待ったなし!!



南宇和高校相撲部

高校相撲における一番の目標はインターハイ出場です。御荘中学校時代に全国中学校相撲選手権大会 団体3位を成し遂げたメンバーがそろそろ今年、選手は、インターハイをめざして強い気持ちで練習にのぞんでいます。

南高の躍進支える地域の力 南宇和少年相撲クラブ

南宇和高校の相撲部の部員は5人。内子町出身の佐々木剣心くんを除く4人はいずれも南宇和少年相撲クラブ出身です。愛南町の子どもたちが相撲を始めるときっかけになっている同クラブは、子どもたちの健全育成を目的に昭和54年に発足しました。昨年はクラブに所属する福原丈一朗くん（10歳）が愛媛県勢として初めてのわんぱく横綱に輝く快挙を成し遂げました。ここ数年は、中学、高校で相撲を続け、大学に進学して活躍する人材を輩出するなど、同クラブが南宇和の相撲の基礎を担っています。現在の部員は、13名。週2回行われる練習で元気よく汗を流しています。

子どもたちを指導する若松良健監督は「子どもたちには相撲に限らず何もかも一生懸命に打ち込んでほしい」と話します。

同クラブの若松監督や小松功大コーチは、仕事の都合がつく限り南宇和高校と御荘中学校の合同練習にも参加して中高生を指導しています。「小学校で相撲に取り組んでいる子どもたちを中学校、高校で指導するというのが強いチームをつくる一番の近道だと思っています」と話すのは南宇和高校相撲部の鎌谷健太郎監督。複数の指導者が連携して小中高の選手を支える、地域の力が南宇和高校の躍進を支えています。



南宇和少年相撲クラブ

毎週火・金の19時～21時まで南宇和高校相撲場で練習しています。入会希望の方、見学の方、大歓迎とのこと